

平成29年当別町議会9月定例会

# 町長所信表明

当別町長 宮司正毅



## 1 はじめに

本日、本議会の場で2期目の町政運営の所信表明の機会をいただき、感謝申し上げます。

私の町長就任1期目を振り返りますと、財政再建を進めながらも、新たな施策に挑戦し、幾つかの新しい事業を実現することができました。これは偏に、本日ご出席の議員の皆様方のご理解の賜物でありまして、改めまして御礼申し上げます。

1期目で新たに実施してきた事業としては、まず「北欧の風道の駅とうべつ」の創設であります。いよいよ今年23日のオープンにこぎつけましたが、この事業は、当別町の「産業力の強化」を進める上での「起爆剤」となり、加えて、道の駅の運営母体であります地域商社「株式会社 tobe（トゥービー）」は、町の将来の経済構造を大幅に向上させてくれるものと確信いたしております。

2点目に、未来を担う子どもの育成を目指して、札幌圏域では初めての「小中一貫教育」を導入し、教育環境の向上に向けて、大きな一歩を踏み出しました。

3点目に、ふるさと納税の寄附金額を直近3年で29倍まで増加させ、町の特産品を全国にPRすることができ、町の名も高めることができたと思います。同時に、特産品の生産増による町内産業の活性化並びに雇用創出にもつなげることができました。また、この寄附金を原資として、教育・福祉等の各事業を促進させることができました。

4点目に、町の基幹産業である農業に従事する方々の所得向上を目指して、「当別町農業10年ビジョン」を策定しました。農協をはじめとした関係団体や農家の皆様と町がそれぞれの役割を担いながら進めてまいりましたが、道の駅の開業により、成果が加速されるものと期待しております。

5点目に、医療費助成、通院費や入院費の無償化の拡充等、子どもの医療費の負担軽減を実現できました。

一方、人口問題では、残念ながら、少子高齢化の流れの中で、減少に歯止めをかけるには至らず、課題を残した形となりました。

しかしながら、これまで多くの町民の皆様と触れ合う機会があり、「町の前向きな変化」や「将来へのしっかりとした道筋」を町民が

感じてくれていて、大変心強く思うと同時に、その期待に応えなければならない重圧を肌で感じている次第です。

町民皆様の期待感をしっかりと受け止め、2期目も攻めの姿勢を貫き、未来への足掛かりとなる取り組みに挑戦してまいります。

それでは、2期目の「施策の展開」について、述べさせていただきます。

## 2 基本姿勢・施策の展開

まず、1番目の施策としては、「稼ぐ力」を身に着けるための「産業力の一層の強化」であります。

その産業力強化の1点目は、既存企業並びに起業される方への支援に努め、町内商工業の基礎体力を向上させ、確かな経済力の基盤の構築を図ることです。

2点目は、引き続き企業誘致を積極的に推進することです。

具体的な誘致企業のイメージは、食品加工業・物流業施設やデータセンター等です。これらの誘致のためには、企業立地支援制度など産業振興制度の改善や、農振の除外及び農地転用により、誘致地区の環境を整える必要があります。

3点目は、「農業10年ビジョン」の一層の推進です。この実現には1次産品の更なる強化に加え、2次産業化、6次産業化への挑戦が必要となります。道の駅がこれらの推進の機関車になることを確信しています。

そして、農業者の所得向上を図り、農業が子や孫に引き継げる・引き継ぎたくなるような魅力ある産業に育ててまいりたいと考えております。

4点目は、再生可能エネルギー施策を加速していくことです。

特にその主役である「木質バイオマスエネルギー」施策を積極的に推進してまいります。そのためには、林業振興にも注力してまいります。

5点目は、「北欧の風 道の駅とうべつ」の着実な運営を定着させ、「株式会社 tobe」をしっかりと育てるということです。このことは、起業・創業を促進し、雇用が創出され、町内消費の拡充をもたらし、確実な産業力の基盤強化につながります。

また、「作ったものを売る」から「売れるものを作る」ということへの意識醸成も道の駅の成功を通じて養われていくものと期待します。

2番目の施策は、教育・子育て・福祉の推進です。

その1点目は、一体型小中一貫校の新設です。

少子化が進む中、子育て世帯を呼び込み、人口減少や出生数の低下に歯止めをかける必要があります。町の将来を担う子どもたちの健やかな成長を促し、当別町で子育てをしたいと言われるように近隣自治体と明確な差別化が図られる教育環境の創出を目指します。

教育・福祉の2点目は、幼児教育・保育の充実です。

子どもの成長の基盤となる幼児期における教育活動の重要性は、誰もが認識しているところでありますが、豊かな感性を育む情操教育や外国語に触れる機会の創出などをさらに深め、小学校教育への円滑な移行につながるよう取り組みを進めてまいります。

3点目は、北海道医療大学並びに町内の社会福祉法人・福祉団体との連携を強化して、医療・福祉分野における施策の更なる充実を図ることです。

北海道医療大学が有する知的資源や、学生ボランティアの力も借りながら、町内の意欲的な福祉法人・団体とも協力して、高齢者に対する包括ケア、介護予防、さらには、在宅医療システムの構築・推進など、町民の健康増進策を進めてまいります。

4点目は、私の1期目に実現できなかった図書館の建設についてです。

図書館は、子どもたちの学習環境を高め、町民の文化的生活を後押しする、また、人が集まり賑わいをもたらす施設として、大変重要であります。町全体の公共施設の見直しの中で、複合施設の一つとして考えてまいります。

5点目は、子育て世帯の生活費用の負担となっている保育料・医療費等を軽減し、また、子どもが学び、遊ぶ施設の整備を進めていくことで、子どもを育てやすい環境づくりをこれまで以上に深化させてまいります。

3番目の施策は、人口減少にストップをかけ、定住人口並びに交流人口を増やすことです。

定住人口を増やす施策としては、子育て世帯を呼び込めるような町営住宅の改修・新設を考えたいと思います。

また、町内アパート賃貸率95%という現状を踏まえ、新規アパートの建設を促進し、同時並行的に、医療大学との「学生町内居住1,000人プロジェクト」での居住者の発掘も進めてまいります。

当別駅・太美駅の駅前周辺の開発も手掛けてまいります。特に、昨年度に構想をまとめた「当別町版生涯活躍のまちづくり」構想、所謂C C R C構想、並びに、北海道庁との連携プロジェクト「北の住まいるタウン」構想を具現化し、定住人口の増加につなげてまいります。

また、冬季道路状況の更なる改善充実と除排雪費用の町民負担の軽減により、近隣市町村との差別化を図り、定住人口の流出を食い止め、かつ、流入につながるよう改善策を思考してまいります。

交流人口を増やす施策としては、道の駅の開業により大幅に増えるであろう来町者を町内に周遊させる仕組みづくりを研究してまいります。

周遊先となる観光スポットの開発、例えば、当別ダム周辺の観光や、祭り・イベントの強化を模索してまいります。

また、先駆的な取り組みとして、最近、誘致したドローン訓練場の発展的活用や、GPS・ICTを駆使した近代機器の活用を、農林業、建設業、観光、除雪、災害等々、様々な分野に広げていきたいと思料いたします。

もう1点、災害対策に今まで以上に真剣に取り組まねばならないと考えます。

世界の気象変動は、過去の実績からは予測できない状況になってきています。町民の安全・安心の暮らしを担保するには、想定

される災害への対応策として、役場庁舎の建て替えや、小中学校校舎の老朽化対策、町営住宅を含む公共施設の改廃などについて早急に議論を深め、計画を立てる必要があります。国交省が推進している PPP/PFI 構想を有効に活用すべく、民間資本の取り込みにも傾注していく所存です。

### 3 おわりに

以上、町長就任２期目の町政の執行にあたりまして、私の所信を述べさせていただきます。

「常に変化し続ける社会や経済環境に目を向け、今、住民が何を望んでいるのか、それを果たすにはどうすればよいのかということ、これまでの慣例に捉われず、考えてほしい。物事の視点を変えてみるという姿勢をとってほしい。見る・考える角度を変えてみる。このことが進化につながるということを理解してほしい。現場を自分の目で見て、新しいアイデアを提案し、それをしっかり議論し、良いと判断したら、挑戦してみよう。失敗を恐れてはならない。進歩は失敗から生まれる。」

これは、私が１期目の就任時に職員に話したことで、２期目最初の登庁時に再度伝えたことです。

私自身もこの原点に立ち戻り、自分自身にも言い聞かせながら、２期目を全うしてまいりたいと思っております。

最後にもう一つ、これも2期目の登庁時に職員に話したことです。

「年々、全国的に人口が減少してきている中、そのサイズに合わせて町を整えていくという考え方もある。私の生き抜いてきた厳しい半生を振り返ると、今、当別に住んでいるこの時間が心安らかで、満ち足りていて、個人的には、このまま何一つ変化してほしくないと思うこともある。

しかし、町のあり方を考えるとき、20年先、30年先の子どもや孫たちの未来を考えると、身をすくめて、人口減少のサイズに合わせて町を整えていくという訳にはいかない。」と伝えました。

産業力・稼ぐ力を強化し、財政基盤を整え、教育・福祉の充実を図り、災害に強いまちづくりを実現する。このことにより、住民の豊かさが高まり、定住人口・交流人口の増加がもたらされ、町内での消費力が向上し、町が発展していくことになるのです。これに向かって果敢に挑戦してまいります。

町職員とともに現存の課題に正面から向き合い、これからの4年間、全力で町政執行に取り組むことをお約束申し上げます。

議会議員の皆様方には、今後ともご指導、ご協力を切にお願い  
申し上げます、私の所信表明といたします。